

# 尾村県議の「問一答」

## 島根1号機廃止措置は毒入り計画



尾村県議は、中国電力が廃炉を進める島根原発1号機を巡り、使用済み核燃料の搬出完了時期を2029年度から35年度に延期した廃止措置計画について丸山達也知事を質しました。

尾村氏は「廃炉には賛成」とした上で、中電の廃止措置計画は原発の廃炉・解体と同時に使用済み核燃料を再処理し、2号機で危険なプルトニウムを燃やすプルサーマル運転を前提とする毒入り計画だと指摘。中電が24年度上期(9月まで)には六ヶ所再処理工場(青森県)が竣工し、35年度までに使用済み核燃料の搬出ができると強弁していることに、尾村氏は「再処理工場は

事故・トラブルが続出し、完成時期が26回も延期され、再処理技術は未確立だ。24年度上期に竣工しない時、中電に説明責任を果たすよう求めるべき」と迫りました。丸山知事は「説明責任を果たしてもらうことが必要」と応じました。

## 核燃料サイクルからの撤退を

尾村県議は、山口県上関町で使用済み核燃料を一時保管する中間貯蔵施設建設計画について、地元住民から「島根のごみを持ち込まないで」「瀬戸内の豊かな自然と暮らしを壊さないで」「中電の拙速で強引な手法が地域コミュニティを壊し、地域の分断を起した」などの訴えが上がっていること

尾村氏は「島根原発2号機を再稼働しなければ中間貯蔵施設など必要ない」と力説。「原発を動かせば、処理方法のない核のごみが増え続ける。原

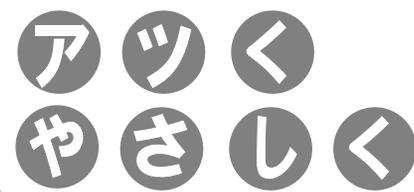
## 人権侵害・虐殺事件の愚行反省を

今年9月は関東大震災が発生してちょうど100年。10万5千人以上が犠牲となる大災害であったことととも

に、世の中の混乱と不安に乗じてデマを拡散し、朝鮮人や中国人、社会主義者らを軍隊や警察、自警団が大量に虐殺したという事実を決して忘れるわけにも、あいまいにさせるわけにもいきません。

先日は、千葉県のある村で起こった史実をもとにした映画『福田村事件』を鑑賞。映像による集団虐殺とそれにいたる経過や背景の描写が生々しく、本当に胸が苦しくなりました。そして物語のクライマックスで放たれた「朝鮮人なら殺していいのか」とのセリフにハッとするとともに、心の中で「そうだ!」とも叫びました。多くの方たちによつて、この重大な人権侵害

大平よしのぶ 衆議院議員



今年、各地でいろんな企画がおこなわれています。9月中旬に仕事で上京した際、新宿区新大久保にある「高麗博物館」に行きました。企画展「関東大震災100年 隠蔽された朝鮮人虐殺」を学ぶためです。会場に入るやいなや飛び込んでくるのが、虐殺の様子を生々しく描いた絵巻。まるで怒号やうめき声が聞こえてくる。実況

中継」のような迫力で、見るものの胸に迫ってきます。さらに証言や当時の新聞記事、地図やグラフを示した説明文などの展示が続き、一通り見終わった頃には手にじっとり汗をかいていました。

前述の絵巻には「此の惨禍に遭遇せざりし人々に示し、以て省慮の念を促し」と記されています。つまり、震災と事件を体験していない未来の皆さん、この姿を見てこの愚行を反省し、よく考えてほしい」という作者の切望だと受けとめました。この約束、胸に刻み今後も行動していきたいと思えます。(9月23日記)

の撤退こそ決断すべきだ」と強調しました。

## 就学援助制度さらなる周知を

尾村県議は令和3年度の県内19市町村における就学援助の援助率は一番高い大田市が25.3%で安来・雲南両市は10%程度だと指摘し、「就学援助を希望する保護者に適切な支援が行き届くようきめ細かな制度

## 大田県議の質問(続き)

### 稲佐川(大社町)水害対策を

大田県議は、出雲市大社町・稲佐川の河口周辺の住宅や事業所は近年、繰り返しの浸水被害に見舞われているものの「十分な対策が講じられていない」と指摘し、出雲市とも協議し早急に対策を講じるよう求めました。

五十川泰史土木部長は稲佐川下流部について、

## 放課後児童クラブの改善を

大田県議は、放課後児童クラブについて、国が示す参酌基準は「1人当たり概ね1・65平方メートル」支援の単位は概ね40人以下」と定めているが、余りにも窮屈であり、保育環境としては不十分だと指摘。ゆとりある保育のために「面積基準の改善と大規模化を抑制する必要がある」と主張しました。

安食治外健康福祉部長

町村が保護者の意見や待機児童の状況などを総合的に踏まえ、地域の実情に応じた面積基準を経過的な措置を含めて判断されているものと考えている。引き続き、面積基準の状況について市町村にも考え方を確認したい」と答弁。支援単位については「県のスローパイプによる巡回なども活用しながら、現場の状況について確認したい」と答えました。

大田氏は、県内の児童クラブ支援員の市町村ごとの平均時給額は1千円前後に留まり、最低の平均時給は832円(昨年度)となっているとし、支援員の処遇と配置基準の改善も求めました。

安食健康福祉部長は「人材確保において処遇改善は重要。国の基準を超えて支援員を配置した場合の運営費の加算などについて、引き続き、国に要望していく」と答えました。

## 子どもを守る熱中症対策を

大田県議は、熱中症対策として、学校活動において水分補給や休息などの体調管理と合わせて「暑さ指数計を指標として、屋外(屋内)での運動は中止するという一定の基準を設けることが必要だ」と強調。

野津建二教育長は「熱中症警戒アラートの発表

また、大田氏は、体育館を含めたエアコン設置の推進等も求めました。